

診断支援ナビゲーションシステム WaiSE の開発

近年、更年期の女性の主訴は不定愁訴とされやすいことが問題となっている。

不定愁訴は、何となく体調が悪いという程度の漠然とした自覚症状を訴える人が医療機関を受診しても、身体の不調や不快感につながる明らかな病変が見つからない状態のことである。

今回の研究は日本医療研究開発機構(AMED)が主体となり、複数の大学で研究開発を分担して行っている。東京女子医大女性専門外来では、多彩な 13 分野の女性専門医が連携しており、女性専門外来として担当医数、患者数共に国内で最大規模である。また不定愁訴の識別診断を行った 10 年間の豊富な診断データを蓄積している。

今回のプロジェクトではこの女性包括医療 10 年間の実臨床データの中から、主訴の組み合わせ、決め手となった検査、最終診断などを抽出、統計解析し、エビデンスと実臨床経験に基づく診断アルゴリズムを実装する。

今回の発表では、データクリーニングの終わった 1855 人分のデータの概要について説明する。